

エアゾール&受託製造産業新聞 2021年8月25日号

<掲載記事>

独自処方に引き合い増

エスコ 新発想クレンジングなど

化粧品OEMメーカーのエスコ（東京都渋谷区桜丘町、資本金4000万円、03-5728-4050、石井純一社長）では、昨年展示会で紹介した5つの処方化技術に対するOEMの引き合いが急増している。同社が発表した技術は次

の5つ。
 「オーダーメイドリボン」は皮膚細胞を構成するリン脂質で構成された同社独自のカスタームド可溶性技術による「ノノカプセル」が、有効成分を肌の深部まで届け肌表面を守ることに加え、有効成分が深く浸透することでインナードライを解消し、若々しく健康的な肌へと導く。自社製造のため、希望成分の高濃度配合が可能だという。

「ECクレンジ」は乳化プロセスの探求から生まれた新発想クレンジング（特許取得済）。独自のオイルキャッチシステムにより、クレンジング中に乳化プロセスを再現、うるおいを高めてスムーズに汚れを落とすクレンジング処方。旧指定表示成分無添加、防腐剤フリー、低刺激、石油系合成界面活性剤、合成ポリマーフリーのコンセプトを叶

える処方。ノンオイルでありながらオイルクレンジング並みの洗浄力を実現する。
 「フレッシュバーム」は特許容器採用のワンアクションで取り出せる、とろける質感のクレンジングバーム。抗酸化ボトルを採用し使い終わるまでフレッシュな状態を保ち、バームクレンジングにありがちなスパチュラを使う必要が無い（特許出願中）。マッサージ

剤として特許取得済のバーム製剤技術を採用したクレンジング。
 皮膚のラメラ構造に着目した「HCR乳化技術」は、加齢やストレス、乾燥などによって乱れた肌に向けて開発された。通常、乳液（乳化）は、ポリマーや石油系界面活性剤などを使用するが、同技術はそれらを用いずにエマルジョン化にすることに成功。肌の水分と油分のバランスを適切

な環境を整える。最後に「CBD配合化粧品」は、正式に厚労省の許可を得られる製法と試験レポートを確立。ブランド戦略として安心して化粧品に使用できる素材提供が可能になったことで実現。CBDに関して同社は、美容オイルやバームへの配合に関する技術的な知見を積み上げており、ボディゲルやフェイスマスクへの応用なども視野に入れているという。

な環境を整える。最後に「CBD配合化粧品」は、正式に厚労省の許可を得られる製法と試験レポートを確立。ブランド戦略として安心して化粧品に使用できる素材提供が可能になったことで実現。CBDに関して同社は、美容オイルやバームへの配合に関する技術的な知見を積み上げており、ボディゲルやフェイスマスクへの応用なども視野に入れているという。

な環境を整える。最後に「CBD配合化粧品」は、正式に厚労省の許可を得られる製法と試験レポートを確立。ブランド戦略として安心して化粧品に使用できる素材提供が可能になったことで実現。CBDに関して同社は、美容オイルやバームへの配合に関する技術的な知見を積み上げており、ボディゲルやフェイスマスクへの応用なども視野に入れているという。

な環境を整える。最後に「CBD配合化粧品」は、正式に厚労省の許可を得られる製法と試験レポートを確立。ブランド戦略として安心して化粧品に使用できる素材提供が可能になったことで実現。CBDに関して同社は、美容オイルやバームへの配合に関する技術的な知見を積み上げており、ボディゲルやフェイスマスクへの応用なども視野に入れているという。

な環境を整える。最後に「CBD配合化粧品」は、正式に厚労省の許可を得られる製法と試験レポートを確立。ブランド戦略として安心して化粧品に使用できる素材提供が可能になったことで実現。CBDに関して同社は、美容オイルやバームへの配合に関する技術的な知見を積み上げており、ボディゲルやフェイスマスクへの応用なども視野に入れているという。